

2016年6月18日(土) ミニセミナー

こんにちは。女子聖学院ラーニングセンターを担当しております、荒木と申します。本日はお忙しい中、この未だにセミナーにお集まりいただきまして、ありがとうございます。短いお時間ではありますが、「自ら学ぶ子を育てるためには」をテーマにお話させていただきます。

進学に関する最終的なご心配は「大学受験」ではないでしょうか？まずは大学受験で求められる能力について、お話していきます。

1. 大学受験へ向けて

今年、文部科学省にて大学入試改革の議論が進められ、3月31日に「高大接続システム改革会議」によって最終報告がまとめられています。この最終報告により、保護者の皆様も「センター試験がなくなる」「新テストが導入される」といった情報を耳にされていると思います。皆様のお子様が入学し、大学受験をされる際には、すでにこのシステムが導入されます。では、このセンター試験の廃止・新テストの導入は何のために行われるのかということを考えてみたいと思います。それは、学校教育法で規定されている「学力の3要素」を目的としています。

学力の3要素の一つ目は、『基礎的・基本的な知識・技能』。二つ目は『知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等』。そして三つ目は『主体的に学習に取り組む態度』です。

今後の大学入試では、これらの3要素を問われる問題が出題されます。例えば英語の問題について取り上げてみますが、2016年の東大・一橋大の英語の試験では、「絵を見て文章を書く」という問題が出題されています。そのほかにも、東大では、3段落構成の英文の結論部を英文で書かせる問題が出題されたり、早稲田大や慶応義塾大では、受験生の意見を求める自由英作文が出題されています。このように、今後の大学入試では「英語ができるかどうか」ではなく、「英語で何ができるか」が問われていることがわかります。

それでは学力を伸ばすために、必要なことは何でしょうか？それは、まずは夢の第一志望校を決めて絶対に合格したいと決意をすること、そしてどうすれば合格できるかを考えることです。それが具体的であればあるほど、合格の可能性は高まります。

ただし、中学生のうちに具体的な志望校を決めるのは難しいと思います。中学生のうちは、まずは学校の定期テストで点数を取ることが最優先です。具体的な数字目標を立てて、それに向けてどう努力し、成果を出していくかが重要です。それでは学校の授業をどう生かしていくのが良いのか、お話していきます。

2. 「子どもへの関わり方」

保護者の皆様も、今までのご経験の中で”「わかる」と「できる」は違う”ということを十分にご理解いただいていると思います。授業を聞いて「わかった！」と思っても、いざ問題を解こうと思うと「できない」。それはそうですよね、「わかる」はインプットの作業で、「できる」はアウトプットの作業です。そして定期テストや大学受験で問われるのは「アウトプット」です。つまり、学校の授業で学んだことをしっかりと自分の言葉で表現しなければなりません。

それではどうしたら、子どもが「勉強がわかるようになって、面白い」と思えるのか。それは第一に「学校の授業がわかること」です。50分の授業が全く理解できないものであれば、その時間は子どもにとっては退屈な時間になってしまいます。

まずは学校の授業を良く聞き、理解すること。理解できないことがあればその日のうちに解決することが大切です。そのために、放課後にはラーニングセンターがあります。ラーニングセンターではチューターが常駐しており、各生徒の質問に対応してくれます。分からないところはその日のうちに解決し、次の授業に向かうという良いサイクルを付けることで、「わかる」の部分を確立させます。

「わかる」ができるようになったら、次は「できる」ようにするステップです。まず、勉強は何と言っても暗記が必要です。基礎的な公式が頭に入っていないと応用は解けません。基礎知識の暗記・定着ができてから、応用問題に取り組む思考力を養うことが求められます。

記憶の仕方や脳に定着のしやすい方法は個人ごとによって変わってきますので、まずは「子どものタイプを知る」ことが重要です。例えばイギリスの高校では、記憶の仕方をもとに、学生を3タイプに分けています。

- (1) 視覚タイプ（見て覚える）
 - (2) 聴覚タイプ（聴いて覚える）
 - (3) 運動タイプ（体を動かして覚える）
- の3つです。

日本の学校では、読んで書いて学ぶスタイルが多いので、“視覚タイプ”の子どもにとっては、特性に合った教育方法ですが、“聴覚タイプ”や“運動タイプ”の学生にとっては、声に出したり、他人に自らの知識を教えたりすることによって、記憶の定着を図ることができます。

そして基礎知識の定着が確立できたら、応用問題に対応できる思考力を付ける練習をします。その思考力は演習した量によって左右されます。演習せずに勉強ができる生徒は一握りです。理解したことをしっかりと定着させるためには、学校の教科書・副教材の問題を最低3周はすることです。

中学生の親御様とお話する機会があるのですが、塾にも通っているのに学校の成績が全くあがらない、模試での成績が上がらない。こんなに勉強しているのに、成績が上が

らなくて不安になる、といった声をよく聞きます。そういった親御様のお話を聞くと、塾では別なテキストを購入しており、学校のカリキュラムとは別のカリキュラムとなっていることが多いです。そして、生徒はその塾の宿題と学校の宿題でいっぱいいっぱいになってしまっているという状況でした。中学生のうち、学校で配布されたプリントをしっかりと暗記する、学校教材で何度も演習をしていくことを重視してください。それによって定期テストの結果が良くなれば、子どもたちも勉強する楽しさが分かり、自発的に様々な工夫をして勉強に取り組むことができます。

今回、色々なお話をさせて頂きましたが、「わかる」から「できる」ようにすることの重要さに重きをおいてお話させていただきました。「わかる」ためには、まずは学校の授業を大切にすること、そして「できる」ようにするためには、お子様のタイプを理解した上で基礎知識の定着・そして学校教材の問題演習をこなすこと。それによって定期テストで良い成果をだし、勉強の楽しさを見出すという流れでお話させていただきました。この良い循環を生み出すために、ラーニングセンターがあります。学校に入学してから、お子様をサポートする環境がありますので、多いに活用していただき、お子様の成長を見守っていただければと思います。